

# 「総がかり行動」からなにを受け継ぐか

## HOWS討論

### 「総がかり行動」からなにを受け継ぐか 戦争するための改憲を阻止する幅広い共同を！

飯島滋明(名古屋学院大学准教授) 戦争をさせない1000人委員会事務局次長 十 受講生

以下は、飯島滋明さんの報告をうけての討論の記録である。  
【編集部】

#### 運動の評価について

友田幸枝 (HOWS受講生)

友田 今後は「闘っていか」という感じではなかったと、このことを議論する上で、この間の国会前での行動も集会がどうだったのかというところを考えると、多くの国民が集まるとは思いますが、そのことについては、一定の評価をしていいのではないかと、思っています。

聖學院大学の石川裕一郎さん(注)「若い人たちが、個人で考え、個人で判断し、個人の責任を持って動いた。……可決後も絶望や徒労感はなく、むしろ明るい」という評価をしているし、また運動の一部からは「負けた気がしない」という総括が聞かれます。

しかし、その後の安倍たちの行動、たとえば正当な臨時国会を拒否したり、平気で憲法を無視しています。運動側の評価は甘いのではないのでしょうか。

飯島 いろいろな意見があるかと思いますが、しかし、これまでも様々な問題があったなかで、あれほど国会前に人が集まるということがあったのかどうかというところが、一つ評価の基準になると思います。

二〇〇三年の小泉純一郎内閣の時に有事法制がつけられましたが、今回のような運動になっただけでなく、今後は、今回の運動が成功したという評価は必要だと、わたしは思います。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

ただ、そこで終わりにしていいのか、という問題になると思います。それは今日のわたしの報告でも一定のスタンスを示したと思うのですが、あれで「成功しました」「これでハッピーエンディングです」と言ってしまうと、大きな間違いだろうなと思えます。むしろ、その先を見据えなければいけない。あくまでも、わたしたちが目指す成功は戦争法を廃案に追い込むことだと思います。だから九月十九日に法案が成立しましたが、あそこで負けたというのも、わたしは逆に早計だと思えます。法案を廃案に追い込むためにここからいかに闘っていくか、ということだと思つてます。

#### 「国会前」の闘いと自らの足元の闘いをつなぐ

藤原 晃 (神奈川高教組)

藤原 わたしの職場は神奈川県内の定時制高校です。今日の意図があるのは当然でしょう。特に今のお話にもあつたように、運動の盛り上がりも、積み重ねられてきた。その都度、選挙では覆されていく。ここから何を学び取るのか、という問題提起をされていまして、わたしもそこに注目しています。

国会でのひびきや、衆議院では審議が二〇〇回も止まった話もありました。しかも運動が盛り上がりつつも選挙では覆ってしまう世論。わたしがここから学び取るべきは、選挙の要国会審議だけに視界を限っていたのでは、労働者です。しかしその実態は、二進も三進もいかないのでは、ないか。本質的な問題はそこには無いのかということだと思つてます。

集会やデモは、確かに続けることには、有事法制のことは、きりも、原発のときよりも、少しずつ広がっている。じゃあ勝つたかというところ、負けたのだと認識は、はつきりとした方がいい。そのためには、きりも、原発のときよりも、少しずつ広がっている。じゃあ勝つたかというところ、負けたのだと認識は、はつきりとした方がいい。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

ですが、ストライキという発想が、わたしの労働組合には無いのが現実です。状況判断としての意味ではなく、ストライキを打てるような思想的な変化を組合員一人ひとりが獲得するためにはなにをすべきか、という発想がないという意味です。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし



ケーター・コルヴィッツ「子どもを抱く母」(1916年)

が不思議になるのです。例えばSEALDsで集まった若者の層を、積極的に評価するつもりで、わたしが、ただ、違つかもしいない点を、わざと頭を点けて出します。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。

友田 レジューメの一番最後に「考え方の違いはあっても」と書かれていますが、わたしもそうだと思います。わたし

も今回の運動を全否定するつもりでなく、次の参議院選挙はどうなるんだろうか、という危機意識を生かしたところから見て、今回の運動は、ある程度成功があった。だから、今後、もそういう活動は続けることが必要だと思えます。そこを全否定してしまつて、集会にしたというだけの総括は、まずいんじゃないかという気がします。



# 「総がかり行動」からなにを受け継ぐか

それこそアジアの民衆の二〇〇〇万人か三〇〇〇万人(歴史学者によって違いますが、そして日本国民三〇〇万人の犠牲の上にできたものです。ただ、わたしはそれだけで語るのには失礼だと思っただけです。それは日本軍「慰安婦」や強制連行をされた人々の存在です。かれら、彼女らはこの二〇〇〇万人のなかには入っていないですね。日本の侵略戦争の被害を受けた人たちの数は、本言に莫大な数になります。

わたしは毎年六月三十日には花岡事件の慰霊祭に参加していますが、自分のおじいちゃんや家族が斃(ころ)れられたという遺族は、本言に泣き出すんです。わたしは聞いていたまじれなくなりまし、それを思うといま現在たつて戦争被害は続いているんです。だから、先ほど述べた数字だけでは語れないものは、たくさんあると思います。そういうことを二度としないと定めたのが、日本国憲法だと思います。

感をかけるから止めましょうと言っ、とだけ広がるの、かなっていうと、わたしは広がらないんじゃないかな、という感想をもったんです。

**土松** わたしがなぜ、このことを言ったかといいますと、九月十九日に戦争法案が強行採決されることとセットになつて、八月十四日に安倍の「七〇年談話」が出ましたが、あそこ書かれている内容で、今後、日本政府が子どもを教育していく方向をとつて、指導要領改訂などをやろうとしている。

さらに言えば、韓国では教科書の国定化が進んでいて、

**憲法をいかして闘う  
沖繩との連帯を  
日向よう子 (HOWS受講生)**

だから、その認識を定着させることが重要だといつのは、その通りだと思えますけれど、それだけ言つて運動が広がるかといつて、わたしはぼそと思えないところがあります。「過去の話でしょ」、「いまの中国に攻められたら、どうするの。」「ついでに論議が幅をきかせちゃつてる気がするんです。」だから、本言「中国が攻めてくると思つてるの。」「ついでに論議や、「自分の子どもや孫が……」「ついでに論議を前面に立てなご、多くの運動がやりつらいんじゃないかな、というのがわたしの実感です。もちろん、おつしやることは、その通りだと思つんです。その認識が足りないといつてもあると思つんですが、運動している人たちに對して中国、韓国に迷

る。平和憲法を規範とする法律の具体的な条項で、沖繩はいま闘っています。これの正しいのは、別に九条と前文だけじゃなくてもいい。地方自治も立派な平和主義の二環なんですよ。先ほどわたしは財政の話もしましたが、そういうものも基礎にして沖繩が闘っていると思つて、ついでにこの問題提起は、わたしにとつても課題になつたなと思つました。

地方自治が大切だといつ論議をもう少し出してもいいなと思つました。やっぱり運動とついでにわたしが一方的に言つていけば、と思つます。

**戦争法反対の統一戦線の形成を  
倉林正明 (HOWS受講生)**

作つていくものだから。確かに憲法の平和主義といつのは、別に九条と前文だけじゃないんですよ。地方自治も立派な平和主義の二環なんですよ。先ほどわたしは財政の話もしましたが、そういうものも基礎にして沖繩が闘っていると思つて、ついでにこの問題提起は、わたしにとつても課題になつたなと思つました。

にもわたしの文章で、これを載せてくれと言つて、載せてくれますので。そうやって沖繩の法廷闘争などと一緒に関つていければ、と思つます。